

生井利幸事務所所管  
英語道弟子課程

## 英語道弟子課程の精神

発行日：2021 年 11 月 12 日（金）

施行日：2022 年 1 月 1 日（土）

発行者：弟子

署名

---

綾部 知子

---

羽鳥 香奈

---

内田 美江子

---

沓間 宏美

---

松永 差世

---

山田 智子

## 第一部 概説

### 1 英語道弟子課程のミッション

生井利幸事務所・銀座書斎は、生井利幸が、自己の命と引き換えに「地球の表面につくった『神の国』(the Kingdom of God)」である。英語道弟子課程の弟子たち、即ち、生井利幸の“直系”・“直属”の弟子たちは、(1)「地球の表面の『神の国』」から(2)「天上の『神の国』」に到達するためのすべての正式神聖指導を正式神聖賦与される。

弟子たちに賦与した **Quasi-Ginza sanctuary** (英語道弟子課程・第三稽古場) は、すべての弟子たちが、(1)「地球の表面の『神の国』」から(2)「天上の『神の国』」に到達するために現実存在する弟子専用稽古場である。

生井利幸は、この地球上で、自分の身体を使う期間が終了するまでに、すべての弟子たちが『第一等級弟子』(disciple elevated)、即ち、『世界的教養人』になることを目指し、すべての弟子を“育て上げ”、“仕上げる”べく、出し得るすべての時間・エネルギーを投入することを、ここに明言する。生井利幸は、今後も、すべての弟子たちに対して「絶対的真理・本質への道のり」について教授し、毎日の一秒一秒に於いて「世界最高峰の英知と精神修養の時間空間」を正式神聖賦与し続ける。

### 2 寝床のない、全寮制の神聖なる学問所

英語道弟子課程は、「寝床のない、全寮制の神聖なる学問所」である。寝床とは、言うまでもなく、弟子たちの自宅を指す。弟子たちは、家族とのコミュニケーション、食事、睡眠、洗濯、掃除等の時間は自宅で持つ。しかし、弟子の心の中心核では、**Quasi-Ginza sanctuary** を「自己の英知の拠点」とし、**Quasi-Ginza sanctuary** での transubstantiation を「生井利幸から弟子への transubstantiation」の体験具現の重要拠点とする。

生井利幸の弟子たちにとって、**Quasi-Ginza sanctuary** は、所謂、英語道弟子課程・第三稽古場としての役割を担う。それ故、生井利幸は、弟子たちが、**Quasi-Ginza sanctuary** にて、できるだけ長い時間にわたって学習活動を行うことを強く奨励する。

生井利幸は、弟子が、「生井利幸から弟子への transubstantiation」を可能な限り数多く体験具現するには、この地球上では、英語道弟子課程・第三稽古場、即ち、Quasi-Ginza sanctuary こそが、そのための最高峰の学習環境であると正式神聖教示する。

弟子たちは、“できるだけ頻繁に”、且つ、“長時間にわたって”Quasi-Ginza sanctuary にて学習活動を行い、少しずつ「具体的 transubstantiation の体験具現」を積み重ねること。

生井利幸は、一事が万事に於いて、「どこにでもある普通有能力・才能よりも、『日々の熱情溢れる努力・汗』こそが、最も美しい代物である」と捉える。この捉え方は、弟子が、「生井利幸から弟子への transubstantiation」を体験具現する上で、最も基本となる捉え方の一つである。

#### ◆生井利幸の言葉

熱情は能力を超越する。

### 3 英語道弟子課程が賦与する稽古場

英語道弟子課程とは、英語で「世界レベルの英知・美意識」構築具現の道を歩む、生井利幸の弟子たちが学ぶ学問所である。英語道弟子課程は、東京・銀座 3 丁目の生井利幸事務所・銀座書齋内に、学問・文化・芸術の研究・教育の拠点を構えている。

第一稽古場： 銀座書齋・中央スペース

第二稽古場： 銀座書齋・奥の聖域

第三稽古場： Quasi-Ginza sanctuary（弟子専用稽古場）

第四稽古場： 美意識構築稽古場（弟子専用稽古場）

第五稽古場： The sanctum sanctorum

### 4 「人類」(humankind)という立ち位置で行われる英語道弟子課程の稽古

英語道弟子課程が賦与する稽古は、英米、及び、世界のトップレベルの大学院で教授されている学術レベル、または、それ以上の学術レベルで行われる。但し、弟子の英語力がこれに及ばない場合は、「弟子にとって最も妥当な英語レベル」で教授する。生井利幸が教授する英語道弟子課程は、一事が万事において、「弟子における現在の“英語力”・“基礎学

力”そのもの」よりも、「弟子自身が、生井利幸の弟子として、『人類』(humankind)という立ち位置から、生井利幸の直接指導の下、如何なる崇高な哲学・理念の構築を目指しているか」という“精神基盤の存否”を何よりも優先して重視する。

## 5 師が堅持する「地球規模の『愛情』『献身の心』」

すべての稽古は、師が堅持する「地球規模の『愛情』と『献身の心』」を基盤として行われる。

## 6 『エラヴェイティッド英語』(English spiritually elevated)で教授する英知・美意識の究極

英語道弟子課程は、「真の学びに『近道』はなし」という“厳格理念”の下、師が教授する稽古を介して、「英知・美意識の『究極』」を目指すための学びの聖域である。

師は通常、英会話道場イングリッシュヒルズの通常レッスンにおいては「エレガント英語」で教授している。一方、究極的英知・美意識の具現を目指す英語道弟子課程における稽古においては、師は、エレガント英語を超越した『エラヴェイティッド英語』(English spiritually elevated)で教授する。

## 7 「弟子」(disciple)と「訓練」(discipline)

「弟子」(disciple)とは、「師の教え・導きにしがたって、師の教え・導きの通りに道を歩む者」を指す。

弟子とは、所謂、「門弟 (もんてい)」(a disciple who entered the gate given by a teacher)を意味する。

「門弟」とは、師が賦与した「師の門」(the gate given by a teacher)の真正面から入り、その「師の門」から入った後、師の教え・導きにしがたって、「師が賦与する訓練・修養・鍛錬(discipline)を受ける者」を指す。

「訓練」(discipline)とは、「師が賦与する訓練」(discipline given by a teacher)を意味する。

師の教え・導きに「地域的、且つ、自分本位な色」を塗り、「地域的、且つ、自分本位な捉え方・解釈」をする門弟は、真（しん）の門弟ではない。

偽りの門弟には一生涯わからないことであるが、師が門弟に賦与する訓練は、そのすべてが、「門弟自身の普遍的発展、及び、永久的幸福」を目的とする訓練である。それ以外はない。

## 8 弟子に求められる姿勢

英語道弟子課程は、弟子が主体性を持って師と作っていく道であるが、2021 年 11 現在、弟子は乳母車に乗り、師に押してもらっている状態であることを知る必要がある。弟子は、「自分が苦勞せず、してもらえるものだけをもらう」という姿勢を改善しなければならない。弟子は、積極的、且つ、能動的な姿勢なくして、「師と弟子個人の『垂直関係』」の樹立・維持を実現することはできない。

## 第二部 稽古

英語道弟子課程は、以下の如き 3 種の稽古を賦与する。

- 1 基盤稽古
- 2 全体稽古
- 3 特別追加稽古

それぞれの稽古の内容は次の通りとする。

### 1 基盤稽古

『エラヴェイティッド英語』(English spiritually elevated)、または、『準エラヴェイティッド英語』(English spiritually pre-elevated)を介して、英米の大学院、または、それ以上の学術的指導を賦与する。

基盤稽古（完全個人稽古）： 毎月 4 回  
（1 回の稽古時間：60 分）

## 2 全体稽古

毎月4回の基盤稽古に加え、2ヶ月に1回、すべての弟子たちを同時に稽古する『神聖なる特別追加稽古』を賦与する。

『エラヴェイティッド英語』(English spiritually elevated)、または、『準エラヴェイティッド英語』(English spiritually pre-elevated)を介して、学問・文化・芸術等、最も妥当なる学術的講義を賦与する。

弟子たちがこれまで全体会で経験したような、意見交換の時間ではない。英米の大学院に相当、あるいは、それ以上の教授内容を賦与する全体稽古である。

全体稽古は、すべての弟子たちが、その都度、「今現在の英語道弟子課程全体の空気感」を感じ取ることができると共に、同時に、「他の弟子に於ける transubstantiation の推移」を知るためのこの上ない最高の機会となる稽古である。

無論、最も重要なことは、「師と弟子個人の『垂直関係』」を樹立・維持することである。しかし、他の弟子たちのあり方を知ることが、改善すべき問題に直面している弟子にとっては、全体稽古を経験することによって、その経験から、「自分自身に於ける改善・解決・向上・発展」に向けた道筋を見出すための価値ある学びの機会となる。

### 1) 全体稽古の賦与の頻度

年間を通して、2ヶ月に1回の賦与。

### 2) 全体稽古の稽古時間

一稽古： 60分。

曜日と時間は固定制とする。

やむを得ず欠席せざるを得ない場合は、他の弟子が録音した英語音声講義データを取り込み、学習することができる。

## 3 特別追加稽古

『エラヴェイティッド英語』(English spiritually elevated)、または、『準エラヴェイティッド英語』(English spiritually pre-elevated)を介して、特殊講義を賦与する。

特別追加稽古は、以下の如き 2 種の稽古とする。

- 1) 特別追加稽古（完全個人稽古）
- 2) 特別追加稽古（複数の弟子に対して賦与する合同稽古）

特別追加稽古の告知は、英語道弟子課程・弟子専用ウェブサイト、「世界レベルの道」にて、稽古日時の前月に告知する。

特別追加稽古は、以下の如き 2 種の方法で賦与される。

- 1) 稽古日時の前月に師が告知し、告知内容にしたがって弟子が申し込む方法  
（この告知方法により、弟子は、前もって準備をすることが可能となる。）
- 2) 弟子からの希望表明による稽古  
（弟子から希望があっても、「賦与する妥当性」がない希望内容については、これを賦与することはない。日時については、相談の上、決定とする。）

## 4 賦与された様々な学習機会

生井利幸から弟子への transubstantiation（全質変化）を目的とする自主稽古

### 1) Quasi-Ginza sanctuary

（弟子が自分の意思で即実行できる「最高峰の精神修養の場」）

Quasi-Ginza sanctuary とは、「英語道弟子課程・第三稽古場」（弟子専用稽古場）を指す。英語道弟子課程は、すべての弟子に対して Quasi-Ginza sanctuary を正式神聖賦与。弟子たちは、「生井利幸が地上につくった『神の国』」の真上にある Quasi-Ginza sanctuary にて、「天上の『神の国』」を目指して、生井利幸から弟子への transubstantiation を介して、最高ステージの学問・文化・芸術等を自己の中に入れることを、自己の人生に於ける最大のミッションとする。

Quasi-Ginza sanctuary を使用する時間に制限はないが、この基盤時間を以下の如き時間とする。

<基盤時間>

5:00 ~ 23:00

(年間を通して、平日・週末・祝日等、常時、使用可能とする。)

## 2) 銀座書齋入居ビル・清掃活動

(生井利幸が賦与する正式神聖指導の範疇・枠組みの中に於ける『神聖なる愛の実行・活動』)

正式神聖指導の範疇・枠組みに於いて行う清掃活動は、以下の如き、「神聖、且つ、普遍的理念」が“現実存在”している。

### ◆神聖、且つ、普遍的理念

“Cleanliness is next to godliness.”

(清潔は、敬神に次ぐ美德である。)

すべての弟子たちにとって、本質、及び、絶対的真理の探究を行う“神聖なる学問所”である「銀座書齋」が入居する建物を清掃できるということは、「神の祝福」であり、「この上ない至上の喜び」である。

清掃活動は、他の人々に幸福を齎すが、それを行う自分自身も、「一個の人間存在としての『中心核』」を磨き抜く役割を果たしてくれる。

生井利幸の正式神聖指導の下で行う清掃活動は、まさに、「美しい活動」である。清掃を行うことで他者に対して幸福を齎し、同時に、「自分自身の美意識」を磨き抜く機会にもなる。

美意識(a sense of beauty)は、“概して”、2種の美意識がある。一つは、1)「通常の典型的世俗社会で表現される美意識」。そして、もう一つは、2)「究極的美意識(最高峰の美意識)としての神聖美」。

生井利幸の弟子たちは、英語道弟子課程に於いて、様々な稽古を介して「神聖美」を学ぶ機会がある。例えば、弟子たちが、ルネッサンス絵画やバロック絵画が表現する神聖美について、生井利幸が発する『エラヴェイティッド英語』(English spiritually elevated)を介して神聖美を体験具現する機会が、これに該当する。画家は、“目に見える絵画(美術作品)”で神聖美を表現するが、生井利幸は『エラヴェイティッド英語の“音”』で神聖美を表現する。



無論、生井利幸は作家であるため、活字、即ち、詩や文章でも神聖美を表現する。

「清掃活動を介して学び、実行する神聖美」も、生井利幸から賦与される正式神聖指導としての「聖なる学びの機会」である。弟子たちは、清掃活動を行いながら、自分たちも、「より美しい存在者」になっていく。

銀座書齋入居ビル・清掃活動を実行する時間に制限はないが、この基盤時間を以下の如き時間とする。

＜基盤時間＞

5:00～23:00

（年間を通して、平日・週末・祝日等、常時、使用可能とする。）

### 3) 銀座書齋内部・清掃活動

（生井利幸が銀座書齋内部に於いて生み出している神聖性を維持する活動）

銀座書齋は、弟子たちにとっては、「世界レベルの英知・美意識」構築具現を図るための神聖なる学問所である。弟子たちは、文書教材を通して既に賦与した規則を遵守することを大前提として、「銀座書齋内部の神聖性の維持」を図ることができる。銀座書齋内部の『神聖性の維持』という目的の下、銀座書齋内部に入室することになるため、弟子自身、『地球上に出現した人類が、その歴史を通して経験・継受してきた“系統性理性性”（“genealogical rationality” Toshiyuki Namai transcendently possesses）』を引き継ぐ生井利幸の“直系”・“直属”の弟子として、弟子としての（１）「自覚」、（２）「誇り」、（３）「責任」を持って入室することが期待される。

「銀座書齋内部の神聖性の維持」は、師が弟子に対して賦与した“神聖なる特権”（a privilege holily given）である。

銀座書齋内部の清掃は、他の活動と同様に、「心のステージの向上の機会」、「相当なる精神修養の機会」となる。

銀座書齋内部の清掃を行う場合は、師に対して希望表明を行うこと。銀座書齋内部の清掃活動時間は、弟子から師に申し出をし、話し合ってから決めること。

#### 4) お花の美意識

(師から弟子への transubstantiation (全質変化) を体験具現し、師の英知・美意識を引き継ぐ活動)

普通の人々は、自宅にお花を飾る。一方、銀座書斎入居ビルに飾ることは、単なる自己満足のためではない。「他の人々の心を綺麗にしたい」「他の人々に幸福な時間を持って欲しい」と心を込めてお花を飾ることと、自宅にお花を飾ることは、それぞれ違うことである。銀座書斎入居ビルにお花を飾ることは、公共の場に飾る行為と同じである。お花を見た人から、「きれいですね」と言われたら、嬉しいと感じるかもしれないが、感謝の言葉が無くても、無心、且つ、幸せな気持ちでお花を飾る行為を行えることが、本物の道筋である。

見返りが無くても、純粋な心で、美しい行為を行えることが本来の美しさであり、これは、生井利幸の生き方でもある。

沈黙を保ち、すべきことを行う。

このような価値観を引き継ぐ上で大切な経験が、「お花の美意識」である。

### 第三部 学費、教材費、施設費

#### 1 入学金

無料。

#### 2 稽古・学費

月謝制

月謝：39,000 円

上記月謝に、基盤稽古（月4回）、全体稽古（年6回/2ヶ月に1回）、及び、施設費（月単位）を含む。全体稽古は、一稽古 8,000 円と定める。

### 3 特別追加稽古・学費

一稽古： 一律 8,000 円

特別追加稽古は、この稽古時間を 60 分（1 時間）の稽古と定める。但し、稽古時間が超過し、例えば、稽古時間が 70 分、80 分、あるいは、120 分（2 時間）の稽古時間となった場合でも、上記学費について、一律 8,000 円と定める。

特別追加稽古の日時は、その都度、「当該特別追加稽古の前月」に、英語道弟子課程・弟子専用ウェブサイト・「世界レベルへの道」にて、その概要を告知する。

### 4 教材費

無料。

（通常は、如何なる学校においても、自分の負担で、自分の教科書を購入することが常識である。）

### 5 施設費

月額 3,000 円。

（月謝に含む）

### 6 学費の納入方法

学費の納入方法は、指定の銀行口座への振込みとする。

＜稽古・学費の振込みの時期＞ 毎月、基盤稽古の月の前月の 15 日まで

稽古・学費（基盤稽古、全体稽古、及び、施設費を含む）の月謝は、稽古の前月の 15 日までに、下記の銀行口座に納入。例えば、12 月分の稽古の月謝であれば、「前月の 15 日」、即ち、「11 月 15 日までに振込み」という方法となる。

＜特別追加稽古を受講したとき＞ 受講後、翌月の１５日までに、月謝と合わせて振込み

特別追加稽古を受講したときは、特別追加稽古を受講した月の翌月の１５日までに、「稽古・学費の月謝 39,000 円と合わせて、合計金額」を指定銀行口座に振り込みと定める。

◆銀行口座

三井住友銀行 銀座支店

＜普通口座＞ ７ ７ ６ １ ８ ４ ２

＜口座名義＞ 英会話道場 イングリッシュヒルズ

## 第四部 諸規則等

### 1 稽古の日時の決定

基盤稽古は、常に、１ヶ月において、毎週１回（月に４回）とする。基盤稽古の日時は、当該稽古月の前月における第１回目の基盤稽古・スタート時に決定する。

全体稽古は、年間を通して２ヶ月に１回、固定制（曜日と時間）とする。全体稽古の日時は、曜日と時間帯が決定後に何らかの方法で通知される。

この方法により、弟子は、稽古の日程が既に決まっている月よりもかなり前から、稽古日時をしっかりと確保することが可能となる。これにより、弟子は、時間的にかなり余裕を持って、他のスケジュール（仕事やプライベート）の調整をすることが可能となる。

したがって、弟子は、常に「自分の学習リズム」を堅持することができ、無理なく、そして、安心して、稽古の受講、及び、稽古の復習をすることができる。

## 2 “師との約束を守る” という行為の「理性性」「神聖性」

師と弟子の相談の上で決定した稽古日時は、言うなれば、「一人の人間」と「一人の人間」の約束である。

「人類」(humankind)という立ち位置から「世界レベルの教養・品格」を養う上で最も重要な精神基盤となる要素とは、「この地球に存する一人の人間として、『社会的常識・道徳・マナーを遵守する』」ということである。加えて、言うまでもなく、「一人の人間として、『自己都合よりも、“他人との約束”を最優先する』」ということも、この地球に存する一人の人間として最も基本となる行為である。近代法学の立場から述べるならば、本来、真の意味における「個人尊重主義」(individualism)とは、このような精神がそこに内在していると明言できるものだ。

このことは、弟子自身、「英知を学ぶ以前の問題」として考えるべき極めて重要な問題、即ち、「地球に存する一人の人間としての『モラル意識』『品性』の問題」と明言できるものである。

師は、常に、「完全個人稽古として、たった一人の弟子」のために、前月の初旬から当該稽古のための時間枠を空け、その時間帯を維持するために、他の時間帯において相当な工夫を凝らし、「弟子と約束した稽古の時間の維持」のために最大限の努力を図っている。

弟子においては、この点について十分な理解を得、国際社会に生きる一人の“常識人”として、「師と約束した稽古日時」を遵守するべく、最大限の努力を試みることを切望する。

## 3 稽古に遅刻する場合

何らかの理由により、稽古場への到着が「稽古スタート時間」に間に合わない場合には、事前に、その旨について電話で連絡しなければならない。

弟子は、たとえ稽古のスタート時間に間に合わない場合にでも、できる限り、稽古に出席するべく最大限の努力を試みることを期待する。

◆英語道弟子課程・弟子(disciple)としての根本精神

“Practice makes perfect every day every night.”

(毎日の練習の積み重ねこそが、より良い成果を生む。)

#### ◆師の考え方

偽者は、平日に勉強するが、週末には勉強しない。本物は、平日はもとより、仕事のない週末にこそ、さらに多くの時間を駆使してしっかりと勉強を行う。

## 4 稽古を欠席する場合

稽古を欠席する場合は、必ず、電話で連絡しなければならない。

#### ＜重要事項の追記＞

生井利幸にとって、『時間』は、『命』と同じ、且つ、神聖なもの」である。弟子においては、「平日・週末共に、常に 24 時間体制で一秒一秒を刻み続けている師における『時間の価値』」についてしっかりと認識・理解していただきたい。弟子自身、厳格な精神基盤の下、「『時間の価値』を理解しない状態でどのように質の高い稽古を受講しても、何ら意味を成さない」という真実を認識・理解することは、受講する以前の問題として最低限必要である。なお、自己都合で欠席した稽古について、その稽古を他の日に振替することはない。

## 5 師に対して相談がある場合

弟子が師に対して何らかの相談がある場合、弟子は、通常の基盤稽古のスタート時、あるいは、電話にて、その旨について相談することができる。相談内容は、稽古における学習内容、稽古の復習方法、あるいは、それ以外の案件、例えば、自分磨き・生き方の問題等、その類を問うことなく、弟子は、師に対して如何なる問題についても相談することができる。

弟子が基盤稽古スタート時、あるいは、電話で師に相談をした場合、師がその相談に乗る上で「相当の時間」が必要であると判断した場合、師は、基盤稽古以外の時間において、その案件についての相談に乗る目的で「別の時間枠」を捻出する。その場合、師は面会時間を捻出し、弟子における問題の解決を目指し、共に、時間をかけてゆつくりとその解決方法について考えていく。

相談は、「相談したいその日」にすることがベスト。翌日、あるいは、数日後に相談しようとする、相談したい事項に対して情熱を失ってしまうことが“通常人の常”である。但し、相談するタイミングについては、教授時間帯、夜間に於けるかなり遅い時間帯、生井利幸が銀座書斎を離れる直前、あるいは、銀座書斎に到着直後などを避ける等、社会常識ある考え

の下、十分な配慮が必要であろう。

## 6 ボイスレコーダー使用に関する基本マナー

弟子は、基盤稽古、または、その他の全ての稽古内容についてボイスレコーダーを使用して録音することができる。

英語道弟子課程に於いて「生井利幸の『特殊講義』を受講する」という経験は、英米に於ける通常の大学・大学院の講義を受講する経験とは、実に比較にならないほどの「巨大なる格差」「ステージの相違」がある。

弟子が、生井利幸の特殊講義を受講するその経験は、「宇宙をつくった神からの祝福」である。弟子は、この経験について、単にそれを受講するだけでなく、「そのすべてを録音すること」が許されている。

弟子は、常に、師が醸し出している空気感を読み、必ず、「特殊講義を開始する前」に録音の許可を得ること。

特殊講義は、中央スペースであれば「弟子の横の椅子に座った後」、奥の聖域であれば「ソファに座った後」に、少々の間（ま）を入れ、静寂の中、ゆっくりと始まる。録音の許可を取る最適のタイミングは、師が座った直後に、落ち着いてゆっくりと録音の許可を願い出ること。

「奥の聖域」で特殊講義の賦与を受けるときは、「奥の聖域に入室する直前」に録音の許可を取ること。

弟子に於ける録音のマナーについては、この方法を「最低限の基準」と定める。この基準を厳守することを柱とし、弟子たちは、「自分の品格・品位・品性」を源泉・基盤として、自分なりのマナーを継続、あるいは、改善すること。その他の「マナー」「心配り」「師から神聖なる祝福を受ける上での喜びの表明」等の方法は、それぞれの弟子に於ける品格・品位・品性に委ねる。

「師が、膨大なるエネルギーを投入し、ある程度の講義内容について講義した後」に録音の許可を得ようとする行為は、「神から賦与された『神聖なる祝福』に対する冒瀆」であることを自分の命に銘じること。

本来、「奥の聖域、即ち、神聖性の範疇に於いては、『神聖なる教え・導き』を録音することは許されない」行為である。

ヨーロッパやアメリカ等の映画のシーンを思い出すとわかることだが、地域社会に存するキリスト教会に於いて、聖職者（神父・牧師等）が説教するとき、それを聴いている教会員の中に、その説教を録音している人はいない。このことを考えるとき、よほど無教養・鈍感でない限り、「生井利幸が賦与する神聖なる特殊講義を録音できる」ということは、如何に特別な機会の賦与であるかということがわかるであろう。

## 7 「家族愛」を基盤とした真実の指導

英語道弟子課程は、上記のすべての事項について、「地球規模の『家族愛』」を基盤として、真心を込めて丁寧に行う。

本来において、弟子に対する真の愛情とは、「弟子に対して『責任ある指導』を行うこと」である。これを逆に述べるならば、「単に優しい」、あるいは、“無意味に優しい”指導とは、弟子に対して責任不在の指導と捉えるべきである。言うまでもなく、「“無意味な優しさ”からは、決して弟子における能力の改善・向上に繋がることはない」と、師は捉える。

師である生井利幸が弟子に対して行う厳格指導は、そのすべてが、「弟子の成長を見据えて行う『家族愛』」であることを、ここに宣言する。生井利幸にとって、「弟子の事」は「自分自身の事」であり、弟子に対する厳格指導は、そのすべてが「自分の家族に対する愛」と同様の愛である。

海外でも日本でも、「親は、自分の子を本気で叱る」という事実は何ら変わるものではない。親が子を叱るのは、「“本気で”子を愛している所以（ゆえん）」である。わたくし生井利幸にとって、英語道弟子課程で学ぶ「弟子」（disciple）は、「真実の学びの道を歩む『自分の子そのもの』」である。

## 8 英語道弟子課程の受験資格

英語道弟子課程・弟子選考試験の受験資格は、英会話道場イングリッシュヒルズの通常レッスンを1年（12ヶ月）以上継続受講した者に賦与される。



通常、弟子選考試験の受験準備には、相当なる期間を要する。受験準備に向けた勉強方法は、弟子選考試験・受験希望者に対して生井利幸が「真心」を込めて行う。

外部からの直接受験は、如何なる理由があろうとも、これを認めることはない。

以上